

冒険家の(1)植村直己は1978年、約800^{キロ}を56日間かけて犬ぞりで進み、北極点に①トウタツ(到達)した。単独行では過去に例のない②チョウセン(挑戦)だった▼途中、③浮氷(ふひょう)に残され、シロクマに襲われた。「これで俺の一生は終わりか」と何度も天を④アオ(仰)いだ思いを自著に残している。世界初を競い、冒険の先鋭化が進んだ時代だった▼(2)そうした姿も、様変わりした。近年は⑤センモン(専門)業者が希望者を⑥募集(つの)り、競ってツアーを組む。世界最高峰のエベレストでさえ、年間数百人が挑む時代だ。《X》だが《》、どれほど商業化しても、冒険行には死へとつながる⑦淵(ふち)がいたるところで待ち受ける▼今年13日に北極点到達に成功した南谷真鈴さんも道中、クマに⑧ソウグウ(遭遇)した。その中のサラミを食い荒らされ、必死の思いで撃退したそう。すでに(3)世界7大陸の最高峰に登り、南極点も⑨踏破(とうは)した。今回の北極点と合わせ2年余りで「エクスプローラーズ・グランドスラム」となった。二十歳での達成である▼山との出会いは商社勤めの父親の⑩赴任(ふにん)で香港に暮らした13歳のときだった。魅力にとりつかれ、エベレストが目標になった。16歳になると、親の⑪エンジョ(援助)は受けず、一人で100社以上にメールを送り、支援を求めて足を運んだ▼彼女の冒険行は早大への進学と両立させながら進んできた。次はヨットで世界一周を目指す。「(4)やりたいことをリスト化すれば、いまやるべきことがみえてくる」《自分を超え続ける》という。(5)冒険の世界の変化には、先人たちも目を《Y丸くして》《》いることだろう。

〔2017年4月23日「天声人語」〕

問一 ①～⑪のカタカナ部は漢字に直し、傍線部は読みを書き入れなさい。

問二 傍線部(1)が、冬季世界初単独登頂後、消息を絶った山の記号を○で囲もう。

ア キリマンジャロ イ アコンカグア ウ エベレスト ⑤ マッキンリー

問三 傍線部(2)の指示する部分を、文中から17字で抜き出して答えよう。

(世界初を競い、冒険の先鋭化が進んだ)

問四 《X》に適する言葉を次から選び、書き入れよう。

・ だから ・ また ・ だが ・ つまり

問五 傍線部(3)を語群から選び、大陸名の下に記号で答えよう。

・ 南アメリカ(a) ・ アフリカ(d) ・ オーストラリア(e)

・ 南極(j) ・ ヨーロッパ(c) ・ アジア(b) ・ 北アメリカ(f)

〔語群〕 a アコンカグア b エベレスト c エルブルス

d キリマンジャロ e コジオスコ

f デナリ(マッキンリー) j ビンソンマシフ

問六 傍線部(4)を自分にあてはめて考え、書き出してみよう。

〔答例〕(早稲田合格 サブスリー達成 ↓ 受験勉強 月間300^{キロ}走破)

問七 傍線部(5)の具体例を文中から2例あげてみよう。

〔答例〕(冒険の商業化が進んでいること)。(女性が二十歳で快挙を達成したこと)。

問八 《Y》に適する言葉を次から選び、書き入れよう。

・ 盗んで ・ 光らせて ・ 丸くして ・ 回して